

1. 親しむ活動

(2) 白川郷学園クロサンショウウオ観察会

- ・開催日：2026年6月17日
- ・会場：NEXCO 中日本飛騨トンネル避難坑周辺ビオトープ

NEXCO 中日本と連携して保全している岐阜県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類クロサンショウウオを題材とし、白川郷学園3年生13名を対象に観察会を実施した。希少種保全を学ぶ環境教育の機会を創出し、地域の自然への理解を深めた。

15 岐阜総合 2026年(令和8年)6月26日(金曜日)

中 日 新 聞

大垣北高の生徒とクロサンショウウオを探す児童＝白川村荻町で



クロサンショウウオは「ツルツル」

白川村で児童ら観察会 大垣北高生が講師

県の絶滅危惧種に指定されているクロサンショウウオの観察会が、白川村荻町の東海北陸自動車道飛騨トンネル付近であった。大垣市の大垣北高校自然科学部の4人が講師となり、同村の白川郷学園の3年生13人が希少な生き物への理解を深めた。

トンネル工事の現場付近で生息が確認されたクロサンショウウオの保護のため、2004年に人工繁殖池とビオトープが整備された。中日本高速道路高山保全・サービスセンターが管理し、14年に初めて自然産卵を確認。今年は卵のうが

200個以上見つかった。この日は白川郷学園の児童が網で体長2〜3センチほどの幼生を捕まえ、かごでじっくり体の特徴を観察。大垣北高の生徒は質問に答えたり、手作りの紙芝居を披露し、両生類の絶滅を防ぐために自然環境を守る必要があることを伝えた。

同学園の今藤風丸さん(8)は「触るとツルツル。これまではオタマジャクシが一番好きだったけれど、こっちの方が好きになった」と笑顔。同高1年の久保田陽貴さん(15)は「サンショウウオはきれいな自然の象徴。知ってもらうことで、自然を守る意識を持つきっかけになればうれしい」と話した。

(村瀬美空)